

令和3年度(2021年度)

管理事業名	道路事業			総合計画の体系	大綱 6 政策 2 施策 1	都市形成 安全・快適な都市を支える基盤づくり 道路などの整備
主な歳出 予算科目	一般会計	(款) 8	土木費	(項) 2	道路橋梁費	(目) 3 道路新設改良費
部局名	土木部	予算執行所属	道路室 地域整備推進室 総務交通室			
予算大事業名 道路事業	上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名 (款)土木費(項)道路橋梁費(目)道路維持費 道路事業 (款)土木費(項)都市計画費(目)緑化維持費 道路事業 (款)土木費(項)土木整備費(目)街路灯整備費 道路事業 ほか					
<b>事業の目的と概要</b> <b>【目的】</b> 道路事業では、都市計画道路の整備、市道の改良、維持管理及び修繕等を行っています。 都市計画道路の整備及び市道の適正管理等により道路機能の向上を図り、誰もが安全で快適に利用できる道路環境の整備を目指します。 <b>【概要】</b> 主な業務内容は次のとおりです。 ・道路の維持に係る事務 市道の機能及び構造の保持を目的に、巡回、清掃、剪定等を実施しています。 ・道路の修繕に係る事務 市道の損傷した構造を当初の状態への回復や付加的な機能及び構造の強化を目的に、補修や補強工事等を実施しています。 ・道路の改築に係る事務 市道の効用、機能等を現状より良くすることを目的にバリアフリー化の改良工事等を実施しています。 ・都市計画道路の整備に係る事務 都市計画道路千里丘朝日が丘線(千里丘工区)の新設事業を実施しています。						

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	成果指標の定義
交通バリアフリー道路特定事業の整備率	%	57.0	76.6	81.8	整備済延長/計画延長
舗装の更新計画に対する更新率	%	86.1	93.1	100.0	舗装の更新延長/計画延長
都市計画道路の整備率	%	93.0	93.0	93.0	完成延長/都市計画決定延長
成果の説明	令和3年度に計画していたバリアフリー化工事につきましては、津雲外周線ほか1路線において予定通り完了しました。舗装の更新工事につきましては、路面性状調査によって把握した劣化損傷状態に基づき、芝田南正雀1号線ほか10路線において、舗装工事を実施しました。また、都市計画道路千里丘朝日が丘線(千里丘工区)の整備に向けた用地取得や支障物件調査を実施しました。				

II 財務情報

◆行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	令和元年度	令和2年度 A	令和3年度 B	差額 B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
<b>使用料及び手数料</b>	<b>375,329</b>	<b>376,461</b>	<b>369,704</b>	<b>△6,757</b>
国庫支出金(経常費用充当)	-	46,200	16,639	△29,561
府支出金(経常費用充当)	6,270	5,363	4,950	△413
財産収入	18	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
<b>その他</b>	<b>616,779</b>	<b>1,379,871</b>	<b>6,375,099</b>	<b>4,995,228</b>
経常収入 小計(a)	998,396	1,807,894	6,766,392	4,958,497
給与関係費	479,844	452,004	461,603	9,599
物件費	763,455	841,458	728,159	△113,299
維持補修費	712,386	384,063	339,882	△44,180
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	18,906	14,291	8,273	△6,018
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	2,553,019	2,616,217	2,269,407	△346,811
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	39,031	36,581	32,405	△4,176
退職手当引当金繰入額	11,123	△7,181	27,348	34,530
支払利息	23,637	24,517	22,369	△2,149
その他	-	59,329	183,214	123,885
経常費用 小計(b)	4,601,400	4,421,278	4,072,660	△348,618
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△3,603,004	△2,613,384	2,693,732	5,307,115
特別収入	-	-	-	-
固定資産売却益	-	-	-	-
<b>その他</b>	<b>4,882,550</b>	<b>5,482,919</b>	<b>1,238,476</b>	<b>△4,244,444</b>
特別収入 小計(d)	4,882,550	5,482,919	1,238,476	△4,244,444
特別費用	-	-	-	-
固定資産除売却損	-	-	2,414	2,414
その他	-	-	44,671	44,671
特別支出 小計(e)	-	-	47,085	47,085
特別収支差額(d)-(e)=(f)	4,882,550	5,482,919	1,191,391	△4,291,528
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	1,279,546	2,869,535	3,885,122	1,015,587
一般財源充当額	1,903,733	1,886,213	1,821,332	△64,881
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	3,183,279	4,755,748	5,706,454	950,706

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
使用料及び手数料	道路占用料 368,824千円ほか
その他経常収入	平成26年度～令和2年度仕訳及び勘定科目誤りに係る誤り訂正 6,306,903千円ほか
その他特別収入	都市構造再編集中央支援事業補助金 41,000千円ほか

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

区分	令和元年度	令和2年度 A	令和3年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	920,772	768,433	459,489	△308,945
<b>行政サービス活動支出</b>	<b>2,071,761</b>	<b>1,787,791</b>	<b>1,624,606</b>	<b>△163,185</b>
行政サービス活動収支差額	△1,150,989	△1,019,357	△1,165,117	△145,760
投資活動収入	81,025	72,050	89,000	16,950
<b>投資活動支出</b>	<b>575,862</b>	<b>595,037</b>	<b>600,744</b>	<b>5,707</b>
投資活動収支差額	△494,837	△522,987	△511,744	11,243
財務活動収入	137,400	84,900	328,300	243,400
財務活動支出	395,306	428,768	472,770	44,002
財務活動収支差額	△257,906	△343,868	△144,470	199,398
収支差額 合計	△1,903,733	△1,886,213	△1,821,332	64,881
一般財源充当額	1,903,733	1,886,213	1,821,332	△64,881
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の主な内容	(行政サービス活動支出) 舗装・施設補修工事請負費、樹木管理委託料ほか (投資活動支出) 青山藤白古江線道路改良工事ほか
----------	---

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
市民1人あたりのコスト	令和元年度	373,978 人	12,304 円	市民1人あたり 10,752円のコストがかかっています。 令和4年3月31日現在の吹田市人口で算出しています。
	令和2年度	376,944 人	11,729 円	
	令和3年度	378,781 人	10,752 円	
市道1mあたりのコスト	令和元年度	537,200 m	8,566 円	市道1mあたり 7,508円のコストがかかっています。 令和3年4月1日調製の道路延長で算出しています。
	令和2年度	538,268 m	8,214 円	
	令和3年度	542,436 m	7,508 円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		令和2年度末 A	令和3年度末 B	差額 B-A	勘定科目		令和2年度末 A	令和3年度末 B	差額 B-A
流動資産	現金預金	-	-	-	流動負債	506,362	514,271	7,909	
	未収金	-	-	-	地方債	469,781	478,877	9,096	
	財政調整基金	-	-	-	短期借入金	-	-	-	
	短期貸付金	-	-	-	賞与引当金	36,581	32,405	△4,176	
	徴収不能引当金	-	-	-	未払金	-	-	-	
	その他流動資産	-	-	-	リース債務	-	2,990	2,990	
固定資産	事業用資産	3,503,209	3,604,835	101,626	固定負債	4,227,061	4,085,063	△141,998	
	有形固定資産	3,503,209	3,604,835	101,626	地方債	3,897,713	3,747,136	△150,577	
	土地	1,090,267	1,074,363	△15,904	長期借入金	-	-	-	
	建物・工作物	2,409,561	2,329,414	△80,147	退職手当引当金	329,348	328,958	△390	
	リース資産	-	11,958	11,958	リース債務	-	8,969	8,969	
	建設仮勘定	3,381	189,100	185,719	その他固定負債	-	-	-	
	無形固定資産	981	911	△71	負債の部合計	4,733,423	4,599,334	△134,089	
	インフラ資産	832,887,970	838,364,519	5,476,549	純資産	831,662,964	837,374,227	5,711,263	
	土地	781,235,663	787,219,009	5,983,346	出資金	-	-	-	
	建物・工作物	51,603,223	51,044,299	△558,924	長期貸付金	-	-	-	
	建設仮勘定	49,083	101,211	52,128	基金	-	-	-	
	重要物品	4,227	3,296	△931	徴収不能引当金	-	-	-	
図書館資料	-	-	-	その他債権	-	-	-		
投資その他の資産	-	-	-	資産の部合計	836,396,387	841,973,561	5,577,174		
負債及び純資産の部合計	836,396,387	841,973,561	5,577,174						

Ⅲ 財務構造分析

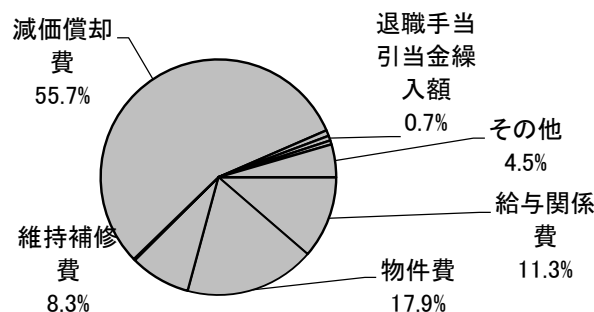
▽人にかかるコストの内訳

	常勤・再任用 月平均	会計年度任用等 年間従事延日数	特別職非常勤 年間従事延日数	合計(千円)
事業従事人数	56.72 人	3,620 日	0 日	521,356
給与関係費等	444,078 千円	77,278 千円	0 千円	
内、時間外勤務手当	20,380 千円			

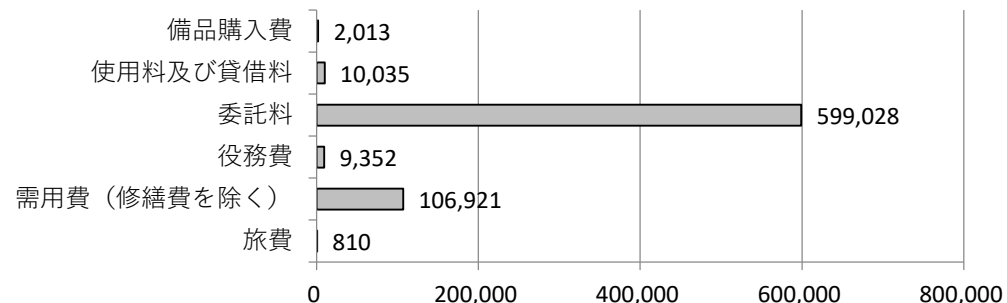
貸借対照表の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	増減理由
事業用資産 土地	用途廃止に伴う所管換による減。15,904千円の減
インフラ資産 土地	寄附及び帰属等による道路用地の増と普通財産への所管換え等による減。差引5,983,346千円の増
インフラ資産 工作物	所管換え・改良工事等による増と減価償却による減。差引558,924千円の減

▽経常費用の構成割合



物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

市道路線の延長	542,436m
取得年月日	令和3年4月1日調製
建物・工作物の取得価額	136,888,621 千円
建物・工作物の減価償却累計額	83,514,909 千円
利用料金収入	368,824 千円

▽分析指標

分析指標	年度	(単位:%)			
		令和元年度	令和2年度 A	令和3年度 B	差 B-A
施設維持補修費比率		0.5	0.3	0.2	△ 0.1
施設老朽化比率		59.6	60.2	61.0	0.8
受益者負担比率		8.2	8.5	9.1	0.6
徴収不能引当率		-	-	-	-
一般財源充当比率		62.6	67.1	67.5	0.4
経常費用対公共資産比率		3.5	3.3	3.0	△ 0.3

【参考:市保有施設全体の老朽化比率は57.6%】

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

交通バリアフリー道路特定事業の進捗率は、津雲外周線ほか1路線のバリアフリー化実施により、81.8%となり、前年度と比較し5.2%上昇しました。都市計画道路整備については複数の路線が事業中であることから成果指標の進捗はありませんでした。キャッシュ・フロー収支差額集計表では投資活動支出において道路新設改良事業における工事請負費の増加があったため、前年度比約1%の微増となっています。また、投資活動収入においても道路新設改良事業における資産となる工事に対する国庫支出金の増加があったため、前年度比約19%の増となっています。行政サービス活動支出は、約9.1%減となっています。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

道路事業は、新規道路の整備、既設道路の維持補修工事のほか、多数のインフラ施設を保有しているため経常的な維持管理経費に加え、老朽化が進む施設の修繕、補修工事に係る経費が主な支出となっています。開発行為などにより、年々、新設道路が増加する一方で、施設老朽化比率は上昇傾向にあり、その比率は市保有施設全体よりも高く、上昇幅も大きい状況です。また、道路の管理延長も増加しています。施設老朽化比率が高い現状においては、維持補修費を増やし事故防止や苦情・要望に対応することも必要ですが、道路の新設以外に既存道路の更新・改修などの投資活動としての支出の増加がより求められます。また、道路としての利用実態に応じて、売却等が可能な資産については調査・検討の上、処分していくことも必要と考えます。この他、道路周辺のみどり豊かな環境づくりも重要事項だと考えており、街路樹の剪定等、これらにかかる経費である物件費の確保も必須です。物件費削減は、吹田市全体のブランドイメージの低下につながります。維持補修費に限らず、物件費の適切な執行及び予算確保もまた本事業における課題の一つです。本事業は一般財源に依存している事業ですが、国庫補助金等、他の財源についても確保できるよう、情報収集に努めることが必要であると考えています。